



ジョイフル コミュニケーション!  
Salesian Bulletin Japan

# ドン・ボスコの風

No.  
**23**  
October  
2019

ローマ教皇、  
38年ぶり  
来日決定。



教皇フランシスコ

# いつくしみと 喜びの使徒

Welcome, Pope Francis!

【連載インタビュー ドン・ボスコの教え子たち】 tanQ株式会社 創業者 **森本 佑紀**さん

【ドン・ボスコのトモダチが暮らす街】 **アニサカン** / ミャンマー連邦共和国

【つながれ! サレジオ青年 SYM JAPAN】 SYM夏合宿 in **奄美大島**

【サレジオ家族探訪】 **カリタス診療所**

【サレジオアンビエール】 **アグスティヌス・トーゴ**神父

こんにちは！濱口です



## 喜びのサレジオ家族をめざして

いよいよ教皇フランシスコが日本を訪問されます。とても心待ちにしています。

教皇フランシスコは“イエス・キリストの愛にもとづいて考え、語り、行動する人”です。イエス・キリストのことをよく知ろうと努め、彼自身の言葉や行い、生き様を通して、イエス・キリストはこういう方なのだよ、とわかりやすく示してください。痛みを負っている人や苦しんでいる人、貧しい人や見捨てられている人を、小さなことであっても大切にします。けっして飾らずに自然体で生きる人で、すごく親しみを感じます。

教皇フランシスコは“恐れぬ人”です。サレジオ会学校の同窓生でもある彼は、「ドン・ボスコのように危険を恐れずに、助けを必要とする若者のために働こう」と呼びかけています。神様を信じきって、委ねきっているから、何も恐れることがないのですね。

教皇フランシスコは“喜びの人”です。彼の使徒的勧告『キリストは生きている』の中で、ドメニコ・サヴィオはドン・ボスコから「聖性とはいつも喜んでいることだ」と教えられたと紹介しています。「イエス・キリストは私たち一人ひとりの中に生きておられます、だから皆さんも喜びのうちに生きてください!」と、教皇は心から願っておられます。

私たちが教皇フランシスコの呼びかけに<sup>こた</sup>えて、さらに「喜びのサレジオ家族」になってまいりましょう。

サレジオ会日本管区長

使徒ヤコブ **濱口 秀昭 神父**

2019年10月7日 ロザリオの聖母の記念日に



2019年8月、野尻湖少年聖書学校に参加した子どもたちと濱口秀昭管区長

はまぐち ひであき

1958年長崎県佐世保市生まれ、61歳。長崎南山高等学校、上智大学を卒業、32歳で司祭叙階。東京サレジオ学園副院長、高松教区会計、調布サレジオ神学院長、サレジオ会日本管区副管区長などを務め、2018年6月より日本管区長。趣味は自然を味わうこと（海遊び、登山、魚・山菜料理を食べる、写真撮影など）。

ジョイフル コミュニケーション!

### ドン・ボスコの風

Salesian Bulletin Japan No.23 October 2019

Contents もくじ

教皇フランシスコ

## 4 特集 いつくしみと喜びの使徒

Welcome, Pope Francis!

- 6 教皇フランシスコはこんな人 / 7 教皇フランシスコのことば
- 8 教えて! フランシスコ教皇さま! / 10 若者の皆さんへ
- 10 家庭を大切に、人類の中心にしよう / 11 サレジオ家族の皆さんへ

12 連載インタビュー **ドン・ボスコの教え子たち** tanQ株式会社 創業者 **森本 佑紀 さん**

14 **ドン・ボスコのトモダチが暮らす街** *Don Bosco Amici*  
アニサカン / ミャンマー連邦共和国

18 **（サレジアンピープル）** *Salesian People* アグスティヌス・トーゴ 神父  
“サレジオ会神父にしてサッカー選手 アマゾン地方の若者と出会うために”

20 **つながれ! サレジオ青年** SYM JAPAN *Salesian Youth Movement Japan*  
SYM夏合宿 in **奄美大島**

22 サレジアン スクール ライフ! レポート

24 **サレジオ家族探訪** Visit the Salesian Family  
**カリタス診療所** イエスのカリタス修道女会

30 **Salesian Family member interview** 「今、私「〇〇」しています!」  
サレジオ会司祭 **榎本 飛里 神父**  
サレジオ学院で「カテキスタ」をしています!

31 サレジアンライフストーリー ドン・ボスコのように生きる  
**ありがとう! 恵美漸吉神父** マリアに導かれた大胆不敵な人生

16 世界のサレジオ家族ニュース / 26 サレジオ家族 国内ニュース / 29 サレジオ情報募集

今号の表紙



2019年11月に来日する教皇フランシスコ。イエス・キリストの愛の教えを、自然体で恐れことなく実践し、全世界に力強く語り続けている。教皇と共に、喜びをもって神から与えられたいのちを生きよう。



ドン・ボスコとは?

「青少年の友」と呼ばれ、助けを必要とする若者たちのために生涯をささげた神父。1815年イタリア生まれ、名前はヨハネ（イタリア語でジョヴァンニ）。ドン・ボスコは「ボスコ神父」の意味。青少年教育に献身するサレジオ会を創立。1888年帰天。1934年列聖。

サレジオ家族とは?

ドン・ボスコの精神を受け継ぐ修道者・信徒・協力者たち。世界130以上の国で、31団体、40万人以上のメンバーが、学校、教会、社会生活のさまざまな場面で青少年や貧しい人びとのために奉仕している。サレジアンファミリーとも呼ばれる。

### サレジアン・ダイアリー vol.05



四日市サレジオ志願院では11月、ベトナム人の青年たちが夕食を作り、志願者たちと一緒に食べ、スポーツをしています。

## 若者だというだけで、君たちを熱愛する

私が日本でサレジオ会に召されたのは21歳の時。「いつも青少年を優先する愛」という神からの賜物を特徴とするサレジオ会です。20年のうちに、大勢の青少年と出会いました。日本人だけでなく、日本にいるベトナム人、フィリピン人、南米出身の若者たち。海外でもたくさんの青少年と出会うチャンスが与えられました。

青少年は私たちの原動力です。ドン・ボスコは言います。「私は君たちのために学び、君たちのために働き、君たちのために生き、君たちのために命を捨てた覚悟がある」と。若者の皆さん、どうぞサレジオ会の支部に遊びに来てください。サレジオ会は皆さんのためにあるのです!

**武井 アントニオ 神父**  
たけい あんとにお

1978年、ベトナム生まれ。41歳。四日市サレジオ志願院副院長。趣味は自畑野菜で料理を作り、皆と分ち合うこと。

ローマ教皇、

38年ぶり  
来日決定。



POPE IN JAPAN  
2019

教皇訪日特設サイト  
今すぐチェック!

<https://popeinjapan2019.jp>



## 教皇フランシスコ Pope Francis

Profile プロフィール

1936年12月17日、イタリア系移民の子どもとして、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスに生まれました。5人きょうだい（男3人、女2人）の4番目で、本名はホルヘ・マリオ・ベルゴリオ。ホルヘは、サッカーをしたり、踊ったりするのが好きな少年でした。

1958年、21歳の時に神父になることを決意してイエズス会に入会。1969年、32歳でカトリック司祭に叙階されました。アルゼンチンの人びとを助けるために、神父として働き、

1992年からは司教として働いた後、2001年からは枢機卿として、バチカンで世界中の教会・聖職者・信徒・家庭のために働いてきました。

2013年3月13日、76歳で第266代教皇に選ばれ、フランシスコと名乗りました。アメリカ大陸から選ばれた初めての教皇です。教皇フランシスコは、世界40か国以上を旅して人びとと出会い、言葉と行動によって人びとを神さまのいつくしみや愛のよるこびの体験に導きたいと願っています。

## 教皇フランシスコ

# いつくしみと 喜びの使徒

Welcome, Pope Francis!

2019年11月、第266代教皇フランシスコが日本を訪問する。

教皇は「キリストの代理人」とも呼ばれ、全世界12億人のカトリック信徒の精神的指導者だ。教皇のために忠実に働いたドン・ボスコになって、サレジオ家族は教皇を大切にしている。

じつは教皇フランシスコも、サレジオで学んだ、ドン・ボスコの教え子だ。

教皇フランシスコは、どのような人なのだろうか？  
そして、どのようなメッセージを伝えたいのだろうか？

● 構成/編集部、写真/©Servizio Fotografico - L'Osservatore Romano

### 教皇って、どんな人？ What is Pope?

#### 使徒ペトロの跡継ぎ

教皇は、イエス・キリストから教会の頭として選ばれた使徒ペトロの跡継ぎ。「キリストの代理人」とも呼ばれます。ペトロは今から2千年前、イエスから「天国の鍵」を預かり、教会（イエスの教えを生きる人びとの集まり）を建て、世界中の人びとを天国に導くよう、特別な使命を与えられました。ペトロが初代教皇で、現教皇フランシスコは266代目です。

#### 全世界のカトリック教会の統治者

教皇は、イタリアのローマの中にあるバチカン市国に住んでいます。世界で一番小さな国の国家元首でありながら、全世界12億人のカトリック教会の統治者でもあり、宗教を超えて全世界の人びとの救いと平和のために働きます。世界中の人びとが教皇のことを親しみをこめて「パパ」と呼びます。

### 教皇フランシスコの紋章

「憐れみ、  
そして選ばれ」



紋章は、教皇のミトラ（司教帽）と天国の鍵が緋色の紐で結ばれています。紋章には、イエズス会の紋章（キリストを象徴する太陽、イエスを表す IHS、十字架と3本の釘）、星（聖母マリアの象徴）とナルドの花（聖ヨセフの象徴）が描かれています。

紋章のモットー“Miserando atque eligendo”（憐れみ、そして選ばれ）は、「イエスは徴税人マタイを見つめ、「憐れみ、そして選ばれ」、わたしについてきなさいと言った」という聖ペーダ・ヴェネラビリス司祭による説教の言葉からとられました。17歳のホルヘ・ベルゴリオは、特別な方法で、神の憐れみが彼自身の心の奥底に下ってきたことを強く感じたと、後に語っています。



Episodes

# 教皇フランシスコはこんな人

## 謙虚な人

- ・人と会って、別れる時にはいつも「私のために祈ってください」と言う人。
- ・教皇就任後初の会見で「あなたは何者ですか？」と質問されて、「私は罪びとです。主イエスから見つめられている者です」と答えた。

## 祈りを大切にしている人

- ・アルゼンチンにいた頃、毎月24日の早朝、ブエノスアイレスのアルマグロにある扶助者聖マリア大聖堂に来てミサをささげ、ドン・ボスコが祝福した聖マリア像の前で1時間あまり祈っていた。

## 神が与えてくださったものを、愛をもって守る人

- ・「マリアとともにイエスを守ること。被造物全体を守ること。すべての人、とくに貧しい人を守ること。自分自身を守ること。これが、ローマ司教（教皇）の果たすべき務めです」と言った。

## 自然に自由に行動する人

- ・修道院で飼っている牛や豚などの世話をした後、シャワーを浴びて「くさいかなあ？」と言いながら、大使の接客をしていた。
- ・彼が大司教の時、車で送りましょうと声をかけると、「ありがとう。でも、バスや地下鉄に乗ることにしているんだ」と答えた。

## 平和の実現のために行動する人

- ・内戦が続く南スーダンの指導者や教会指導者たち招いて、バチカンで2日間の黙想会が行われた。教皇はサルバ・キール大統領と、反政府勢力を率いるリヤク・マシャール氏に会うと、ひざまずいて2人の足にキスをした。そして、戦争の火が永久に消され、平和と和解のうちに未来を築けるよう願った。

## 人を探す人

- ・ベルゴリオ神父（教皇の本名）が36歳でイエズス会のアルゼンチン管区長になった時は難しい時代で、共同体から離れてしまった会員もいた。彼は管区長になるとまず、その人たちを探して呼び戻した。

## 貧しい人の友となる

- ・冬の夜、貧しい人が「毛布が欲しい」と神学院を訪ねてきた。ベルゴリオ神父は扉を開けて丁寧に接し、自分の毛布をその人にあげた。
- ・よく「貧しい人から学べ。シンプルな信仰をもつ人から学べ」と言っていた。

## 人に仕える人

- ・キリストの受難と復活を記念する聖週間に、教皇は「主の晩餐の夕べのミサ」をローマ近郊の刑務所で司式。最後の晩餐でイエスが弟子たちの足を洗ったことを思い起こしながら、人を支配するという野心を超えて、互いに奉仕し合い、兄弟として生きようというイエスは教えていると語った。教皇は「洗足式」でさまざまな国籍の12人の受刑者一人ひとりの足を洗った。

## サッカーが大好き

- ・アルゼンチンのサッカークラブ「サン・ロレンソ・デ・アルマグロ」の熱心なサポーター。（サレジオ会のロレンソ・マッサ神父がオラトリオで地域の子どもたちのために創設したクラブ。本誌p.19参照）



引用参考資料：ホアン・カルロス・アイダル神父「新教皇フランシスコの素顔」[カトリック生活] 2013年5月号  
 平林冬樹神父「歴史の中の教皇という存在」[カトリック生活] 2013年5月号  
 VATICAN NEWS 2019年4月11日、18日付/ ANS 2013年3月14日付/ australasia 2013年3月19日付



教皇フランシスコの半生がわかる映画  
 DVD『ローマ法王になる日まで』

出演/ロドリゴ・デ・ラ・セルナ、セルヒオ・エルナンデス、ほか  
 監督/ダニエーレ・ルケッティ  
 113分 日本語字幕 2015年制作  
 軍事政権下のアルゼンチンで危険を恐れずに苦しむ人や貧しい人に寄り添ってきた教皇フランシスコの知られざる激動の半生を、事実に基づいて描いた映画。

おすすめ!



## Words of Pope Francis

# 教皇フランシスコのことば

あなたが神を探さないときでも、  
 神はあなたを探しています。  
 あなたが神を忘れたときでも、  
 神はあなたを愛しています。

(2019年4月29日 教皇によるツイート)

「過去のない聖人も、  
 未来のない罪びともいません。」  
 神の呼びかけに、謙遜に、  
 誠実にこたえればいいのです。

(2016年4月13日 バチカンでの一般謁見)

人生とは、何かを手に入れるための時間ではなく、  
 愛するための時間なのです。

(2018年11月7日 バチカンでの一般謁見)

一人ぼっちで希望をもち続けることはできません。  
 希望をもち続けるには、  
 支え合う共同体が必要なのです。

(2017年2月8日 バチカンでの一般謁見)

罪びとであるわたしと主の関係、  
 これこそ救いの生命線です。  
 自分は正しいと思えば、  
 救いの関係はなくなります。

(2016年4月20日 バチカンでの一般謁見)



もしわたしたちが聖書を携帯電話と  
 同じくらい常に持ち歩き、  
 メールを読むのと同じくらい  
 神様からのメッセージを読んだとすれば、  
 いったい何が起こるでしょう。

(2017年3月5日 お告げの祈り)

閉じこもり、安全にしがみついて病んだ教会より、  
 町に出て行って傷つき、汚れた教会のほうが好きです。

(2013年11月26日 使徒的勧告「福音の喜び」)

神の子らしく生きるとは、  
 隣人を愛し、孤独や困難の中にいる人たちに  
 寄り添うということです。

(2014年7月1日 教皇によるツイート)

持っている物を人びとと分かち合うときにだけ、  
 わたしたちは本当に豊かになります。  
 分かち合われたものは増やされるのです。

(2013年7月25日 ブラジル リオデジャネイロのスラム街で)

出典：「日めくり 教皇フランシスコ」  
 著者/教皇フランシスコ  
 写真/L'Osservatore Romano  
 訳・解説/片柳弘史  
 ドン・ボスコ社  
 2019年11月発行予定  
 より抜粋



おすすめ!

教皇フランシスコのTwitterをフォローしよう!  
 教皇フランシスコ(邦訳) @chuokyo\_pope

日本カトリック中央協議会による、教皇フランシスコの邦訳リツイート。  
[https://twitter.com/chuokyo\\_pope](https://twitter.com/chuokyo_pope)



Questions & Answers

教えて! フランシスコ教皇さま!

世界中の子どもたちが手紙を書いて、  
教皇フランシスコに質問してみました!

おすすめ!



世界中の子どもたちからの質問に、教皇フランシスコが、やさしく、キチンと答えます。  
「神さまは世界を創る前、何をしていたの?」「なぜ神さまは、悪魔をやっつけないのですか?」  
…本書には素晴らしい質問と答えがいっぱい!



出典:『フランシスコ教皇さまへ』  
質問/世界の子どもたち  
答え/フランシスコ教皇  
訳/片柳弘史  
ドン・ボスコ社 2016年  
より抜粋



まわりにいる子どもたちを見ると、  
どんなふうに思っていますか?

とてもやさしくて  
温かい気持ち  
になります。あなた  
のような子どもを見る  
と、心に大きな希望がわきあが  
てきます。わたしにとって、子  
どもを見るということは、未来を見  
るということなのです。

みんなといっしょにすることが、わたしを幸せ  
にしてくれます。みんなと一緒にいられない  
ときは、イエスさまといっしょに時間を過  
ごし、イエスさまにみんなのことを話し  
ています。教皇として、わたしはみんな  
といっしょにいたいと思っています。

教皇として働く中で  
何が楽しいですか?



子どものころ、  
おどるのは好きでしたか?

たくさんおどりましたよ!  
本当に楽しかったです!  
大きくなってからは、タ  
ンゴをおどるのが好きでした。  
おどりは、よろこびと幸せの表現ですよ。  
大きくなってまじめすぎる人にならないよ  
うに、子どもたちよ、今はおどりなさい!

サッカーチームの試合を見るのは本当に大  
好きです。チームワークと団結を見られ  
るからです。もしある選手がすべてを自分だけ  
でやろうとすれば負けてしまうでしょうし、チ  
ームメイトはその選手を好きになれない  
でしょう。上手にサッカーをするた  
めには、みんなでプレーしなければ  
ならないのです。

なぜサッカーが  
好きなのですか?



世界をもっと美しく、  
すばらしくするために、  
残りの人生で  
あと何をしたいですか?

世界中のすべての争いを解決することはできま  
せんが、わたしたちは、地球をもっとよい  
場所にしようと努力することができます。戦争に勝  
つためのいちばんよい方法は、戦争を始めないこと  
だということを、人びとにわからせな  
ければなりません。簡単でないのはわか  
っています。でも、やってみます。  
あなたもやってみてください。

さまがわたしたちのために  
してくださる、すべてのよ  
いことに感謝してほほ笑みたいで  
す。神さまのがまん強さにも感謝  
したいです。苦しんでいる人びとを助けてあげ  
たいです。子どもたちがイエスさまと知り合う  
のを助けたいです。世界から、奴隷がまったく  
いなくなるようにとも願っています。

どうしたら  
世界中の争いを  
解決できますか?



なぜ、貧しくて、  
食べ物のない人が  
たくさんいるのですか?

もし一つ奇跡を起こせるとしたら、わたしはす  
べての子どもをいやすでしょう。なぜ、子  
どもたちが苦しむのですか? わたしの心はそう問  
いかけています。イエスさまは泣いておられます。  
泣くことによってわたしたちの悲しみを  
わかってくださるのです。わたしは泣  
くのたためらいません。あなたも、泣  
くのたためらう必要はありませんよ。

ごらん、もうパンはあります!  
地球上には、すべての人  
が食べるのに十分な食べ物がある  
のです! 本当の問題は、たくさん  
持っている人が、それを他の人と分け合うのを  
いやがっていることなのです。わたしたちは、  
持っている財産や食べ物を分かち合うことを学  
ばなければなりません。そうすれば、すべての  
人が満たされ、だれもが幸せになるでしょう。

もし一つ奇跡を  
起こせるとしたら、  
何をしたいですか?

### Message for the Young

## 若者の皆さんへ

2018年2月パナマで開催された世界青年の日 (World Youth Day) で、教皇は若者たちに「恐れずに幸せになってほしい」と呼びかけました。

「幸せであれ。

愛されていると感じよう。

一緒にいると感じよう。

(きみは一人ではないよ)

本物、真実であれ。

友情そして共に夢見ることを喜ぼう。

ワクワクして、熱意をもって。

落ち着いて挑戦に立ち向かおう。

神の善を信じよう。

神があなたに求めていることを探そう。」

ANS 2018年2月26日付

### Prayer for Families

## 家庭を大切に、 人類の中心にしよう

全世界の教会が毎日の祈りの中でささげるために教皇が示す「教皇の祈りの意向」があります。2019年8月は、家庭のために祈るよう呼びかけました。

「どのような世界を、わたしたちは未来に残したいでしょうか。家庭のある世界を残そうではありませんか。家庭を大切にし、そこが未来の真の学び舎、自由の息づく場所、人類の中心となるようにしましょう。そして、家庭の中に、個人や共同体の祈りのための特別な場を保ちましょう。皆で祈りましょう。家庭が、祈りと愛に満ちた生活を通して、いつそ“真の人間の成長の学び舎”となっていくように。」

VATICAN NEWS 2019年8月1日付

### Message for Salesian Family

## サレジオ家族の皆さんへ

# 若者たちのために、 リスクのある決断を してください!



教皇フランシスコとサレジオ会総長アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長のツーショット。2015年6月、トリノの扶助者聖マリア大聖堂で。

ドン・ボスコ生誕200周年を祝う2015年の6月21日、教皇フランシスコはイタリア・トリノを訪問。サレジオ会事業発祥地ヴァルドッコの扶助者聖マリア大聖堂で、サレジオ家族と共に過ごしました。教皇はドン・ボスコの墓の前で祈った後、30分以上にわたり自らのサレジオ会との関わりやサレジオ家族へのメッセージを親しく語りました。その要旨を紹介します。

**親** 愛なるサレジオ家族の皆さん、私は皆さんにお伝えしたいことがたくさんあります。皆さんが教会のためにしてくださることに感謝します。宣教師となってくださって本当にありがとうございます。手紙も書きましたが形式的すぎるので、ここではサレジオとの思い出をお話します。私はフェルナンデス総長とアルゼンチンですでに知り合いで、一緒に働きました。

### サレジオ会員に導かれた少年時代

サレジオ家族にとっても感謝しています。私の家族はサレジオ会と深いつながりがあります。父はイタリアからアルゼンチンに渡るとすぐ、聖カルロ小教区の扶助者聖マリア大聖堂へ行き、そこで多くのサレジオ会員と出会いました。



1949年、小学6年生のホルヘ・マリオ・ベルゴリオ（教皇フランシスコ）。ホルヘは兄と一緒にラモス・メジア・サレジオ学院（現在のウィルフリド・パロン学院）に通っていました。教皇フランシスコはサレジオの同窓生です!

私の父と母は、サレジオ会宣教師のもとで結婚しました。その司祭のもとではよく告解（ゆるしの秘跡）をしたものです。彼は私に洗礼を授け、召命（司祭への道）を導き、神学校からイエズス会に入る手助けをしてくれました。

母は5回目の妊娠をした時1年間、体が麻痺した状態でした。その司祭の手助けで私たち兄弟はサレジオ会の学校に通うことができ、私はその小学校を卒業しました。

### 扶助者聖マリアとの深いつながり

私はサレジオの学校で、聖母マリアを愛することを学びました。5月24日が来るたびに、私は扶助者聖マリアのもとを訪れ、花を持っていき、おとめマリアに祈りました。よくサレジオ会員に、「扶助者聖マリアの祝福を与えてください」と頼みました。こうした経験ができたことを神に感謝しています。この経験によって、私は恐れたり欲望に執着したりすることなく育つよう助けられました。また、喜びと祈りのうちに前進するよう助けられました。

### 母マルゲリータのように導く

サレジオ会員は美しさや仕事について私に教え、愛情深く心の成長を導いてくれました。ドン・ボスコは少年たちの情緒を成長させることができました。なぜなら、彼には情緒面を育ててくれた母親がいたからです。ドン・ボスコを理解するためには、彼の母マルゲリータを理解しなければなりません。今日のサレジオ家族の皆さんは、息子の心を導いた母マルゲリータのように、少年少女たちを導くことができますか?

### ドン・ボスコの3つの愛

ドン・ボスコは、聖母マリア、聖体、教皇への愛について語ることをためらいませんでした。3つの愛です。

ドン・ボスコが第1に愛したのは、聖母マリアでした。おとめマリアに祈り、自分自身を神に委ね、多くの危険に立ち向かいました。



イスラム過激派から18か月ぶりに解放されたサレジオ会宣教師トマス・ワツナナリル神父を迎える教皇フランシスコ（2017年9月）

2番目は、聖体への愛です。サレジオ家族は典礼をよく準備し、上手に説明するのが得意なので、子どもたちが聖体の神秘を体験する助けになります。

3番目の教皇への愛は、1人の人間に限られるものではありません。教会の花婿の代表者、教会の長上としてのペトロへの愛です。教皇への愛の背後には、教会に対する愛があるのです。

### 若者の危機にドン・ボスコのように挑戦する

19世紀末、ドン・ボスコが生きた時代のイタリアには、本当に悪魔的な思想がはびこっていました。トリノは悪魔的な場所の1つでしたが、そこからどれほど多くの聖人が輩出されたことでしょう! ドン・ボスコは、教育を受けられず仕事のないストリートチルドレンと共に働きました。自分の聖職を危険にさらしてまで働いたのです。

今のイタリアでは、25歳以下の40%の若者に仕事がありません。学ぶことも、仕事もできません。ドン・ボスコが直面したことと同じ難問に直面しています。このような若者たちをひきつけてください。ドン・ボスコなら何をしましたでしょうか? スポーツです! スポーツは親交を深め、互いを高め合う健全な競争をもたらし、共に働く喜びへ導きます。そして、教育です。この40%の若者は何かを必要としています。サレジオ家族の皆さんはこの危機と向き合い、創造的にこの挑戦に応じるべきです。

通りにいる子どもたちに食べ物を与えましょう。空っぽのお腹で神を賛美することはできません! 通りを見てください。若者たちを見て、リスクのある決断をしてください。恐れてはいけません。ドン・ボスコは恐れませんでした。

サレジオ会員から学んで決して忘れないこと、それは若者を喜びへ導くということです。主が私たちに与えてくださるすべてのことから導かれる喜びで、美しいことです。

### 教皇フランシスコのメッセージをYouTubeで見よう

教皇フランシスコのメッセージやバチカンのニュースを、VATICAN NEWSのYouTube動画（英語・イタリア語・スペイン語など）で見られます。  
<https://www.youtube.com/user/Vatican>



連載インタビュー  
**ドン・ボスコの  
 教え子たち**

今、様々な分野で活躍している  
 サレジオな同窓生を紹介します。

●取材・文／編集部



tanQ株式会社 創業者

もりもと ゆうき

1986年大阪府松原市生まれ。大阪星光学院中学校・高等学校卒業。神戸大学経営学部を卒業後、広告代理店のベンチャー企業へ就職。その後、出会った仲間たちと教育系ベンチャーのtanQ株式会社を設立。子どもの「知りたい! やってみたい!」を育む探究型・知育型通信教育と探究型学習塾の運営、教材制作を行う。

We are **DB's** Students **森本 佑紀さん**  
 大阪星光学院中学校・高等学校OB

**勉強する意味も、生きる意味もわからなかった青年が、ある授業をきっかけに、学び探求する喜びに目覚め、起業をめざすことに。教育系ベンチャーを起業し、子どもが楽しみながら「探求する力」を育む仕掛けづくりに取り組む森本佑紀さんにお話を伺った。**

**大阪星光学院に入学したきっかけは？**

小学校5年生の時、父親が私立中学の受験を勧めてきたんです。実家の周辺はあまり治安がよくなかったので「息子は私立に入れてみるか」と思ったらしく、私立なら大阪星光学院（以下、星光）がいいと聞いたようです。僕自身はというと、当時は自分のことを天才だと思っていました。周りに勉強をする人がいなくて、普通にしていただけなのですが（笑）。天才だから受かる！という思い込みと勢いで、星光に合格しました。

**学生生活の思い出は？**

入学したのに、最初は学校に行きたくなくて。地元の仲間は楽しく青春しているのに、星光では同じ進学塾出身者どうしがすでに知り合いで、僕だけ一人ぼっち。同級生の話を聞くと、親が社長とか医者とかで、僕がいる場所じゃないんだと感じました。ところが柔道部に入学したら、友達ができて楽しくなって。毎年の合宿も楽しかったです。勉強以外のことが学校へ行く理由でした。成績は常に下から2番をキープ。両親から「勉強しなさい」と言われなかったのは救いでした。

学校に自分の居場所を作らなくてはと思って、お笑いに精をこめました。漫才を研究して、台本を書いて、お笑いライブを開催したりして、学校では人気者でした。勉強が嫌いで、大学に行く意味がないと思っていたので、高校3年でみんなが受験勉強している時に、僕は漫才のコンクール「M-1グランプリ」に出場。自信満々でしたね。ところが自分のお笑いは学校の外では全然受けない。1回戦で惨敗でした。プロは舞台上に登場した瞬間に笑いをとって、声の出し方も間とり方も、才能が全然違う。スパッとあきらめがついて、受験勉強に切り替えました。

すごく印象に残っているのは、中高6年間お世話になった岩城志門先生です。毎朝、僕の頭をヘッドロックしてきて、「今日は何か悪いことしてへんか？」と聞いてくるんです。今学校に着いたばかりなんですけど（笑）。勉強が苦手でも、そんなふうには体当たりで関わってくれる先生がいて、僕は嬉しかったです。

**大学に入って、今の仕事にいたるまでの経緯は？**

勉強する意味がわからないまま大学に進学して、初めの2年間はほとんど学校に行きませんでした。ところが、大学3年の時に出席した三品和広教授の経営戦略の授業で目を開かされました。たとえば、「なぜ戦争が起こったのか」という問いから始めて、哲学や宗教も含めあらゆる教科を横断して授業を展開したり、『八甲田山』という映画を見て「この戦略をどう思うか」と議論させ、企業で不祥事が起きた場合にどう対応したらよいかを考えたりするんです。

三品教授の「君たちは正解を学んできたかもしれない。でも、



学習塾 tanQLABO の出張イベント。大人も子どもと同じ目線で一緒に学ぶことができる。



通信教育 tanQ²uest の教材の一つ、元素バトルゲーム「アトモン」に小学生も夢中！オンライン授業では講師や受講生と対話し、個別にフィードバックも行う。

**興味をもつことは、世界とつながる鎖だと思えます。**

世の中のことに正解はない。だから学ぶんだ」という言葉が胸に刺さりました。それまで僕は試験のための勉強で学ぶ意欲を失っていましたが、「勉強って、めっちゃおもしろいやん！」と。同時に、「もっと幼い時に言ってよ！」と憤りを感じました。それからは二十歳までマンガしか読んでいなかった僕が、むさぼるように本を読むようになりました。すると、社会に出る意味も、生きる意味もわからなかった僕に、やりたいことがたくさん出てきて、起業してダイナミックな経営をしてみたいと思うようになったんです。

大学卒業後は広告代理店のベンチャー企業に就職しました。起業セミナーに通い、課外活動をするうちに、今の会社の仲間と出会い、意気投合して、教育で起業することにしました。「教育」という、夢中になれるものに出会えたんです。

**今の仕事内容は？**

tanQ株式会社では、子どもの「知りたい! やってみたい!」を育む教育サービスを提供し、その教材を制作しています。インターネットの動画を利用して、広くあまねく誰でも、手頃な価格で学べるのが特徴です。今は主に小学生を対象に、探究型・知育型通信教育の「tanQ²uest (タンキークエスト)」と、探究型学習塾の「tanQLABO (タンキークラボ)」を運営しています。学校や学童保育などにもサービスを提供していて、僕はいろんな場所に出張して子どもたちと一緒にワークをすることに力を入れています。

勉強には興味がない、必要ないと思っている人にこそ、遊ぶような感覚で仲間と共に考える体験を通して、好きなことに会い、学ぶ楽しさに出会ってほしいと願っています。tanQ²uestの教材は、動画を楽しんで疑問をもち、実験やゲームなどの体験学習を通して、家族や友達と共に学ぶ仕掛けになっています。大人は教壇に立つ必要はなくて、子どもと同じ目線で学んだり、子どもの成長と一緒に喜んで伝えたりする立場になります。

知識の習得も大事ですが、複数の人間が価値観をぶつけ合って学び合う「深く対話的な学び」を大切にしています。社会で共に生きていくためには、「なぜ?」「どうすれば?」という問いについて、いろいろな人の意見を聞き、自分なりの意見を伝え、一緒に力を合わせて探求することが必要だからです。

不登校の子どもが年々増加しています。世界とのつながりの意味を見失って、自分が透明になって消えてしまいたいという子どももいます。興味をもつことは、世界とつながる鎖だと思えます。教える側が進化しなければなりません。楽しみながら「探求する力」を育む仕掛けをつくっていきたいです。

**若い人たちへのメッセージを**

自分の過去を振り返ってみて、苦しいことや、ひどいこともたくさんあったけれども、歩んできた道は全部正しかったと、今は思えます。今、苦しいとか、生きるのが嫌だと思っている人には、その苦しみは、未来の自分のために与えられているんだよ、と伝えたいです。きっとその苦しみは、活かすために与えられている。僕はそう受け止めて乗り越えてきた気がします。



tanQ 株式会社  
 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-10-1 マリア千駄ヶ谷ビル B1  
<https://www.tanqfamily.com>



大阪星光学院  
 中学校・高等学校  
 大阪府大阪市天王寺区  
 伶人町1-6  
<http://www.osakaseiko.ac.jp>



サレジオ家族が関わりをもつ  
世界そして日本の風景を紹介します。



## Anisakan

Republic of the Union of Myanmar

アニサカン / ミャンマー連邦共和国  
公用語:ビルマ語

ミャンマー連邦共和国は東南アジアのインドシナ半島西部にあり、140以上の民族からなる多民族国家。イギリス統治時代は民族によって分割統治され、独立後は武力闘争と軍事政権による独裁、民主化運動、近年ではイスラム教徒のロヒンギャ虐殺問題などで、現在も紛争による難民は数十万人にのぼる。サレジオ会は1939年から宣教師を派遣。軍事政権下で教会や学校を政府に没収され50年間の孤立した困難な時期を乗り越えて、地域の貧しい人びとのために診療所や青少年の寮・教室（オラトリオ）の運営を続けている。サレジオ会のチャールズ・マウン・ポー枢機卿は、ミャンマーのカトリック教会のリーダーとして、スーチー政権、今も強権を握る軍部、少数民族の間で仲介を果たしながら、人びとが平和のうちに民族・宗教を超えて共に生きるために尽力している。



ドン・ボスコの寮・教室（オラトリオ）で学ぶ少年たち。放課後は好きなスポーツで思い切り遊ぶ。

親の迎えを待つ幼稚園の子どもたち。サレジオ・シスターズの志願生に甘える園児も。



## シエラレオネ

傷ついた青少年のために  
勇気をもって声を上げ、行動する

News Source: ANS

「この娘さんは料理が上手なんですって?」教皇フランシスコは、2019年2月、パチカンのサンピエトロ広場で一般謁見に集まった群衆の片隅にいるサレジオ会のホルヘ・クリサフツリ神父に尋ねた。教



パチカンで教皇フランシスコと謁見するシエラレオネのアウグスタさん

皇はすぐに、その親しみやすい人柄でアウグスタと打ち解けて話し始めた。

シエラレオネから教皇に会いに来た20歳のアウグスタは、6歳で孤児となり、売春を強要される路上生活をしてきた16歳の時に、フリータウンにある「ドン・ボスコ・ファンブル」に保護された。現在は小さなレストランを開き、強制売春の犠牲となったほかの少女たちに料理を教えている。

クリサフツリ神父はフリータウンの路上で、早朝、ほかのサレジオ会員と共に、6歳から14歳ほどの性的搾取を受けている少女たちが身を寄せている所を巡り歩き、温かい食べ物や薬を届け、その地獄から遠く離れた安全な家に来よう提案する訪問活動を行っている。

教皇との出会いについて、クリサフツリ神父は次のように語る。「フリータウンで強制売春の犠牲となっている少女たちの現実について、ドキュメンタリー映画「LOVE」(スペインのメディアが制作)を通して、1年間かけてヨーロッパ中で紹介してきました。その最終目的地で、私たちは教皇にアウグスタの話をしました。「この世の地獄」を通ったこと、ドン・ボスコと出会い、教育と職業訓練を通して「救い」を得たことを話しました。教皇は人身売買や搾取などを根絶するため懸命に闘っておられ、アウグスタが経験したことに強い関心をもってくれ

ました。教皇はアウグスタの頭に手を置いて祝福されました。アウグスタと共に、サレジオ会の取り組みによって救い出されたすべての少女を祝福してくださいました。

サレジオ会やドン・ボスコ・ファンブルが国際的な意思決定の場にいることは、人権擁護活動にとって大事だと気づきました。子どもや未成年を、実際に、効果的に守ることになるからです。例えば、シエラレオネのフリータウンでも、このドキュメンタリー映画を多くの行政当局者たちの前で上映しました。ドキュメンタリーでは立場を乱用する警察官たちも登場しますが、その1週間後、警察庁長官から、強制売春の犠牲となっている未成年への対応について指針が発表されました。それには、子ども、少女たちと性的関係をもった警察官を解雇し、即刻裁判にかけるといった対策も含まれていました。

また私たちは、大統領夫人を訪問活動に巻き込むことに成功し、ついに大統領は「未成年の性的虐待に関する国家緊急宣言」を発表しました。これによって今では、虐待を受けた少女は無料で医療を受ける権利があり、警察組織の中にこういった犯罪を起訴する特別な機関が創設され、虐待事件のための優先制度が裁判所に設けられ、そのような犯罪を犯した人間は終身刑をもって罰せられることになったのです。」

## ブラジル

サレジオ連帯キャンペーン  
約100世帯を支援

News Source: ANS

2019年8月、ブラジル・レシフェ管区のアラカジュにあるサレジオ扶助者聖マリア高等学校は、7月の豪雨で大きな被害を受けたラジール・セルジッペ州リアチュエロの被災家庭に、食糧や生活必需品などを届けた。



豪雨災害被災地でボランティア活動を行うサレジオ扶助者聖マリア高等学校の生徒

同高校の司牧事務局によると、この被災者支援の取り組みには教職員・協働者・生徒・保護者が協力し、保存できる食糧や飲料水、衣類、おむつ、シーツ、

子ども用のおもちゃなど、さまざまな支援物資を集めた。被災地では8日間にわたってこれらの物資を配布し、100世帯ほどを支援した。

## スペイン

第32回アメンセル・アーバンキャンプに  
1100人の青少年が参加

News Source: ANS



スペイン・オウレンセのアーバンキャンプに参加した1100人以上の青少年

2019年8月、スペイン・オウレンセにあるサレジオセンターの「ズベニル・アメンセル会」は、32回目となる街中でのアーバンキャンプを開催した。今年のスローガンは、「アーバンキャンプ:夏のミッション」。879人の子どもと161人の若者が参加、118人のアニメーターが同伴し、合わせて1,158人がキャンプに参加した。

テーマに基づいてさまざまな

活動が行われ、ふだん夏は眠ったようになるオウレンセの街は、出会いと祝祭、一致の雰囲気にあふれ、若者たちがリーダーシップを発揮する場に生まれ変わった。キャンプの開催者が若者たちに信頼し、耳を傾け、彼らに声を与えることによって、若者たちは生き生きと活躍し、町は「ボスコ・スタイル」の若々しい喜びに包まれた。

DBK [ドン・ボスコ基金] は  
特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する  
サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

## DBKウェブサイト

<http://salesians.jp/about/dbk>

機関誌「DBKだより」バックナンバーもご覧いただけます。



DBK [ドン・ボスコ基金] では、ボリビア、モンゴル、南スーダン、東ティモール、日本国内など、世界各国のサレジオ関係グループによる青少年の保護育成プロジェクト等を支援しています。ご寄付くださる方は、下記の振込口座まで(または本誌とじ込みの払込用紙にて) お振り込みください。

郵便振替口座番号: 00190-5-292253

加入者名: ドン・ボスコ基金

※通信欄の寄付意向にチェックを入れて、寄付金額をご明記ください。寄付者氏名の非公表をご希望の方は、払込用紙に「匿名希望」(☐チェックマーク)をご記入ください。

## 南スーダン共和国

日本と南スーダン、  
サレジオ家族の絆に結ばれて

イエスのカリタス修道女会宣教女  
シスター下崎優子



祈りをささげる南スーダンの神父と村の人びと

いつも、私たち南スーダン共和国の人びとのため温かいご支援をしてくださり、心より感謝いたします。皆様がつも心にかけてくださっていることに、私たちは励まされています。

食料を配る前、主任神父様は必ず日本のサレジオ家族の皆

々が支援して下さることを説明し、皆で日本の皆さんのために感謝の祈りを唱えています。以前はもらうことが当たり前で、「少ない」と不満さえこぼしていた村の人たちが、今は「ありがとう」(アラビア語で「シュクラン」)と笑顔で言う人が増えてきました。

南スーダンの人は、誇り高く、純粋な心の持ち主です。私は村の人たちに、皆さんからの支援が、有り余る中から出されたものではなく、欲しい物を買わないでお金を貯めたり、子どもたちがお菓子をがまんしたりして貯めたお金を送ってくれているのだと話しています。恩着せがましいと思われるかもしれませんが、日本のサレジオ家族の皆様が支援して下さる思いをきちんと伝えることで、感謝を知らなかった人たちが感謝するようになり、道ですれ違うと感謝の気持ちを言う人も出てきました。これは本当に大きな変化です。

これもひとえに、皆様からのご支援で定期的に食糧支援をす

ることができている賜物です。たいていのNGOは、プロジェクトでない限り、そのときだけ届けられたものを配り、後はいつ来るのかわからない状況です。

いま、私の部屋から、オラトリオ(教会が運営する学校)に参加している子どもたちの声が響いています。日本の皆さんからの支援で購入したポータブルステレオで音楽を流しながら、運動場でサッカー、バスケットボールなどを楽しんでいます。遊んだ後はロザリオを唱えて、家に帰ります。

日本と南スーダンは遠い国でしょうですが、サレジオ家族の絆に結ばれて助けられていることに感謝しています。ありがとうございます。

## ベトナム

## 聖マリア職業訓練センターの建設プロジェクト

ベトナム・タイビン教区  
グエン・ヴァン・デヨ教(サレジオ会)



グエン・ヴァン・デヨ教(右)と春山ラップ神父

プロジェクトを進めており、支援して下さる恩人を探しています。寄宿制訓練センターは半分ほど建設が進んでおり、信徒たちがほとんど手作りで作っています。専門家はごく少数で、機械はほとんどなく、手作業です。でも、自分たちの手で作っているという喜びがあります。

このような活動が続けられるのは、皆さん一人ひとりが支えて下さるからです。皆さんのちょっとした犠牲で助けを必要とする方々を生かすことができるのです。

今、教会が発展しないのは、教会の中だけで、美しい儀式をしているからではないでしょうか。教会が出ていくことによって、人と出会うことによって、社会に奉仕することによって、教会の発展につながっていきます。DBK [ドン・ボスコ基金] はそのような働きを担っておられます。皆さんが私たちと協働して下さることで、新しい良いものが生まれると思います。ご支援とお祈りをよろしく願いたします。

現在、障害者のための聖マリア職業訓練センターを建設する



Taisha, Ecuador



アグスティヌス・トーゴ 神父

Fr. Agustinus Togo, SDB

エクアドル管区  
Taisha, Ecuador

## サレジオ会神父にしてサッカー選手 アマゾン地方の若者と出会うために

サレジオ会のアグスティヌス・トーゴ神学生は、人生の大きな決断を迫られていた——プロのサッカー選手になる道か、それとも、神の呼びかけに<sup>こた</sup>えて神父への道に進むのか——。養成支部の有志によるチームが、トーゴ神学生の出身地であるインドネシアのプロサッカーチームと親善試合をした時、彼は人生の岐路に立った。トーゴ神学生はその試合で、見事なボールさばきで皆の目をくぎ付けにしたのだ。

——神父になったということは、  
サッカーを捨てたのですか？

**トーゴ神父** 私はこのスポーツを捨てませんでしたよ。サレジオ会の神父になってからも、サッカーを続けています。世界中どこにいても、たくさんの人をひきつけるこのスポーツをありがたいと思っています。私が宣教師として働いているエクアドルのアマゾン地方でも、サッカーはとても人気があります。今はここで、アチュアル族の人びとのために働いています。

——サッカーは何歳から始めましたか？

**トーゴ神父** 子どものころに始めました。私は海沿いの地方の出身で、家は浜辺の近くにありました。友達と浜辺でサッカーをして遊び、試合が終わったら海で泳ぎました。私の人生で、サッカーは大きな意味もっています。さまざまな人と出会い、友情を分かち合い、相手をサポートすること、尊敬すること、<sup>けんそん</sup>謙遜などの価値を学ぶことができるからです。

——<sup>しほく</sup>司牧活動のなかで、  
サッカーはどのような意味もっていますか？

**トーゴ神父** サッカーは多くの人を動かします。ワールドカップが開催されると、皆、仕事の手を止め、試合を観戦します。アチュアル族の人たちも同じです。試合やチャンピオンシップがあると、若者たちは1週間、2週間かけて歩いて行くのをものともせず、試合に出かけます。サッカー選手になりたい、もっとうまくなりたいという気持ちが、若者たちの中に強くあるのです。それで私はひらめきました。“サッカーを通してイエスキリストの愛を伝える方法を試してみたらどうだろう？”と。福音宣教とは、宣教師の神父がやってきて、教会でミサをして、告解(罪の告白)を聴いて……ということだけではないと思います。教皇フランシスコが言うように、私たちは出かけて行かなければなりません。宣教するいろいろな方法を見つけなければなりません。

——どんな夢をかなえたいですか？

**トーゴ神父** 私の夢は、アチュアル族の村にサッカーの学校を設立することです。若者たちはテクニックを向上させたいという意欲がありますが、そのような学校はまだありません。その準備のため、今年2月、私は「サッカーと科学」をテーマとした3日間の会議に参加しました。ワサケンツァの集落で、この学校のアイデアを実行に移し始め、ほかの集落でもトレーニングを行っています。

——アチュアル族の若者の場合、  
どのような困難がありますか？

**トーゴ神父** 今、外部から来る多くの問題があります。麻薬、テクノロジーの誤った使い方などです。ときに若者たちは、そういったことに関わってしまいます。目標は、若者たちの関心をひきつけるためにスポーツを用い、彼らをそれらの悪徳から徐々に引き離すことです。そして、若者たち自身が、ほかの若者たちのためにアニメーター・教育者となる機会を提供したいと考えています。

News source

ANS 2019年7月16日記事より

「ANS」は世界のサレジオ家族ニュースサイト。毎日世界各地のサレジオ関連ニュースが英語・イタリア語など6か国語で紹介されています。http://www.infoans.org/



Column

## サレジオがルーツの 強豪サッカークラブ CAサン・ロレンソ・ デ・アルマグロ



アルゼンチンのサッカークラブ「サン・ロレンソ・デ・アルマグロ」の創設に協力したロレンソ・マッサ神父と選手たち。マッサ神父によると、ユニフォームの色は、オラトリオにあった扶助者聖マリアの絵から取ったとのこと。

アルゼンチンの首都ブエノスアイレスを本拠地とするサッカークラブ「CAサン・ロレンソ・デ・アルマグロ」は、アルゼンチンリーグの強豪クラブの一つ。「サン・ロレンソ」の愛称で親しまれるこのクラブは、サレジオ会司祭ロレンソ・マッサ神父が責任者を務めていた、ブエノスアイレスのアルマグロ地区にあるサン・アントニオ・オラトリオで1908年に誕生した。

アルマグロ地区の教会近くの通りでサッカーをしていた少年たちが安全な場所で思う存分走り回れるように、ロレンソ・マッサ神父が教会の敷地を提供したのがきっかけだ。少年たちがグラウンドを使う条件は、毎週日曜日のミサに参加することだった。マッサ神父は、読み書きなど生活に必要なこともオラトリオで少年たちに学ばせ、別の場所に異動しても、少年たちやクラブのことをいつも心にかけていた。

マッサ神父は1949年10月31日に亡くなったが、クラブの顧問を務めたラウル・エントライガス神父は次のように記している。「サン・ロレンソ・デ・アルマグロ・クラブへの愛は、マッサ神父の命であり死であった。喜びであり、ドラマであった。サン・ロレンソはマッサ神父にとって霊的な子であった。マッサ神父は父というよりも母親のようにサン・ロレンソを愛した。その勝利に歓喜し、その敗北に苦しんだ。」

2019年4月1日、サン・ロレンソ・デ・アルマグロは111歳の誕生日を祝った。アルゼンチンの強豪サッカークラブの一つであるだけでなく、バスケットボールやバレーボール、ホッケーなどにも活動は広がっている。



「サン・ロレンソ・デ・アルマグロ」のユニフォームを受け取る教皇フランシスコ。教皇はこのチームの熱烈なサポーターとして知られる。

News source “ANS” 2019年4月2日記事より



「龍の目」と言われるトンネルを抜けて。それぞれの召命を分かち合いながら歩きました。

祈りながら歩く、  
歩きながら祈る。

つながれ! サレジオ青年 SYM JAPAN Salesian Youth Movement Japan 2019.8.23-27 SYM夏合宿 in 奄美大島

2016年の上五島巡礼、2017年の宮崎巡礼に続き、2019年も「祈りながら歩く、歩きながら祈る」をテーマに青年巡礼を行った。訪れたのは鹿児島県の奄美大島! 30ある教会のうち、以下の18の教会を徒歩で巡った。

サレジオ高専・サレジオ学院・日向学院同窓生、星美短大在學生、目黒星美教員、ドン・ボスコ社員、サレジオ会哲学生と、3修道会の同伴司祭・シスターを含めて13人。現地の信徒の方々と交わり、雄大な自然の中で祈りの時を過ごした。

お世話になった鹿児島教区とコンベンツァル聖フランシスコ修道会、イエスのカリタス修道女会の皆様と、お祈りくださったすべての方に感謝して、5日間の旅の恵みを分かち合いたいと思う。

文・写真/SYM JAPAN 事務局

巡礼団は、調布・碑文谷・下井草・鷺沼・大和教会青年、



たくさんの人が私たちのためご飯を作ってくれました



波の立たない龍郷の海の夜明け



今まで自分がどのように神さまを考えていたか振り返ることができました。3、4時頃起床で約20kmを歩くスケジュールには驚き、不安もありましたが、歓迎してくれた奄美の方々のおかげで歩き切ることができました。皆さんの優しさに心動かされて、普段忘れがちな思いやりや感謝の気持ちの大切さを強く感じました。

(18歳・星美短大在學生)



カトリック赤尾木教会。教会を訪れるたび、ロザリオの祈りを一連させました



早朝は真っ暗。ハブに気をつけながら歩きました

巡礼を振り返ると、美しい情景ばかりが思い出されます。私は歩くことが大好きですが、巡礼で歩くのは特に好きです。皆で目的地に向かって、つらさや苦しさ、そして美しさを共有し、時に多くの人に助けをもらい、また元気に歩く。この私たちの生き方を歩いて体感することが、SYMの歩く目的の一つではないかと思いました。

(21歳・下井草教会青年)



星のような形をしたカトリック小宿教会



この透き通った海……!

最近は忙しさにかまけて教会から離れてしまい、祈りも機械的に行っていた部分がありましたが、巡礼に参加したことで、意識づけせずとも自然と深く祈るようになっていました。島の方の温かさは涙が出そうなほどうれしく、感謝以外何も出ませんでした。何か私が恩返しできることはないかと考える日々でもありました。

(28歳・鷺沼教会青年)



カトリック安木屋場教会。信徒の方がそうめんを用意してくれました!!



美しい風景に合わせて、島の人と一緒に踊りました!

奄美で出会った方一人ひとりの言葉や行い、また神さまが造られた自然をとおして多くの愛をいただきました。こんなにも強く愛を感じたからには、私ももっと「生かされている」という感覚をもって、神さまの愛を体現していきたいと思いました。神さまの無限の、無償の大きな愛を、人に対する行いをもって讃えたいです。

(20歳・日向学院OG)



ものすごい日差しでした。皆こんがり焼けました

歩きながらそれぞれの召命を分かち合いました。皆と神さまとのドラマを知れてよかったです。また、島の方が「皆が来てくれたから、私たちが集まって神さまに心を向けることができ、若い人のために頑張らなきゃと思えた。ありがとう」と言ってくださり、その心の温かさ、私たちのもつ若い力のすばらしさを改めて感じました。

(24歳・サレジオ学院OB)



カトリック喜瀬教会。この巡礼のためにご像を塗り直して下さったとか?!

青年たちが受けた恵みを分かち合うべく、SYM JAPANの公式ホームページにて合宿参加者の感想文を公開しています。

「SYM 奄美感想文」で検索!

<https://sym-japan.themedia.jp/>

▶ **星美学園小学校** (東京都北区)

**広島平和学習**



星美学園小学校6年生の広島平和学習、平和記念公園で

2019年6月12～14日の3日間、星美学園小学校6年生が広島平和学習に参加しました。初日は広島市立<sup>のぼりちよう</sup>小学校との交流会を行い、お互いの学校紹介では、学校の特色を伝え校歌を披露。被爆ピアノを囲んで、歌の交流会では素晴らしいハーモニーを奏でることができました。次に訪れたカトリック<sup>かな</sup>幡町教会の世界平和記念聖堂では、みことばの祭儀を行い、一人ひとりが立てた平和の決意をおささげしました。

2日目は、平和記念公園の記念碑・慰霊碑をめくり、平和記念資料館で被爆体験談を聞きました。生徒たちは、被爆された方の実体験に真剣に耳を傾けていました。広島平和記念資料館では原爆による悲惨さを学びました。その後、3つのグループに分かれて老人ホームを訪問して交流会。歌のプレゼントや肩叩きを行い、普段聴くことができないお話を伺って、貴重な経験となりました。夜は元安川の川ぞいで、平和のともしびの集いを行いました。原爆ドームの対岸で灯籠に火をともして祈りと歌を捧げ、平和の使者としての誓いを立てました。

3日目は、原爆の子の像の前で、聖歌と祈りを捧げました。本川小学校ではボランティアガイドの方からお話を伺い、当時被爆した校舎を間近に見つ、黙祷をささげました。

▶ **日向学院中学校・高等学校** (宮崎県宮崎市)

**高校オープンキャンパスとサマースクール**

2019年8月3日、日向学院高等学校のオープンキャンパスが開催され、多数の中学3年生が来校しました。高校オープンキャンパスは生徒会が中心になって運営し、学校説明をはじめ、新しい大学入試についての説明、制服紹介、行事説明、部活動



日向学院でのサマースクールの様子

紹介・見学、校内見学など、短い時間で盛りだくさんのプログラムでした。

翌4日は、小学生を対象にしたサマースクールが開催されました。サマースクールは学ぶ楽しさを体験してもらうために、日向学院の先生や生徒がアシストするという企画です。今年と同窓生の応援もありました。体験授業は理科、技術、美術、家庭科、パソコン、書道があり、夏休みの自由研究のヒントにもなるので、小学生から人気の企画です。日曜日の暑い中でしたが、大勢の小学生と保護者の方々が来校してくださいました。

▶ **サレジオ学院高等学校** (神奈川県横浜市)

**全国高等学校総合文化祭 郷土研究部門で文芸部歴史班が最優秀賞**



全国高等学校総合文化祭の郷土研究部門で、最優秀賞を受賞したサレジオ学院高等学校の文芸部歴史班のメンバー

2019年7月27日～8月1日に佐賀県で開催された「第43回全国高等学校総合文化祭」(総文祭)の郷土研究部門(研究発表の部)で、サレジオ学院高等学校の文芸部歴史班が最優秀賞を受賞しました。

研究発表したのは、高校3年の向阪大雅さん、田中良征さん、高校2年の伊藤慧人さんの3人。「相模大山の神仏分離 一大山御師の動向を中心に一」をテーマに、江戸時代に流行した大山詣などについて2017年秋から研究に着手し、今年2月には伊勢原市で開催されたまちづくりサミットで事例発表やパネルディスカッションにも参加してきました。

今回の総文祭の郷土研究部門には全国から21校が出場するなか、サレジオ学院の文芸部歴史班の約2年にわたる地道な研

究が実を結んでの最優秀賞となりました。

▶ **サレジオ工業高等専門学校** (東京都町田市)

**ものづくりチャレンジ大作戦 in まあちに参加**



子どもたちに「ものづくり」を教えるサレジオ高専電気工学科の学生たち

2019年8月18日、東京都町田市の子どもセンターまあちで、「第1回ものづくりチャレンジ大作戦」が開催され、サレジオ工業高等専門学校(サレジオ高専)電気工学科の学生たちが講師として参加しました。このイベントは町田周辺の企業、中学校・高等学校・専門学校・大学の教員、学生、生徒、そして民間教育団体の会員のボランティアが協力して「ものづくり」を小学生に教える機会です。教員ではなく学生が講師となって、作品をつくる面白さや工夫、原理などを教えることが大きな特徴です。

今回、サレジオ高専の学生たちは小学3年生以上を対象に、導電性のインクを用いた回路マーカーで自分の好きな回路を描いてLEDを点灯させる「お絵描き回路をつくろう」という講座を実施。講師となった電気工学科の学生たちは、普段の教わる側から、子どもたちにLEDの仕組みや並列・直列つなぎなどの電気工学を教える側となり、講義を行いました。教えることの難しさを感じながらも、教わる子どもたちの「わからない」が「わかった!」に変化する時の達成感を感じることができ、良い機会となりました。

▶ **都城聖ドミニコ学園高等学校** (宮崎県都城市)

**創立50周年記念の愛真祭 開催**

2019年9月6～7日、都城聖ドミニコ学園高等学校では文化祭「愛真祭」が開催されました。創立50周年記念にちなんで「Keep 50ing」というスローガンを掲げ、躍動的で熱い文化祭となりました。

初日は、開会式と生徒会によるオープニング、オーストラリアとフィリピンの姉妹校での留学体験、弁論、英語暗唱弁論などの発表が行われました。2日目の午前中は、クラスで練習を重ねてきた合唱のコンクールや、合唱部の発表、音楽部のハン



都城聖ドミニコ学園高等学校の文化祭「愛真祭」で、生徒たちの集合写真

ドベル演奏がありました。昼休みには、調理飲食物の販売、フラワーアレンジメントの展示販売、動画上映会、アトラクションなど、各クラスがそれぞれのカラーを出してクラス展示発表を開催。午後は、ダンス部の演技披露、家庭部のファッションショー、個人発表など、生徒それぞれのすばらしいタレントが発揮された発表を楽しみました。

笑顔あふれる2日間となり、駆けつけてくださった保護者や卒業生の皆さん、ありがとうございました!

▶ **大阪星光学院高等学校** (大阪府大阪市)

**全国高等学校総合クイズ大会で優勝**



全国高等学校総合クイズ大会の決勝戦出場者(大阪星光学院のチームは写真中央、優勝杯を囲む3人)(写真提供:一般社団法人日本クイズ協会)

2019年8月24日、「第2回ニュース・博識甲子園」(全国高等学校総合クイズ大会、一般社団法人日本クイズ協会主催)が東京で開催され、大阪星光学院高等学校のチームが全国大会初出場で見事に優勝しました。全国の頂点に輝いたのは、大阪星光学院高等学校の山川李成さん、木村秀太さん、三好桜太さんの3人によるチーム。全国8都市で行われた予選会には103校182チームが参加し、全国大会は予選会を勝ち抜いた上位8校が出場。各校3人1組で早押しクイズやボードクイズに挑戦しました。時事問題を中心に、科学、歴史、芸能音楽など幅広いジャンルから出題され、日頃のクイズで鍛えた知識力だけでなく、趣味やSNSを通じた情報収集力、ひらめき力などさまざまな知力が発揮されました。



# キリストの愛“カリタス”の精神で 信頼できる医療と心温まるケアを届ける診療所

## ○世界遺産の地、<sup>そとめ</sup>外海

世界文化遺産の地、長崎・外海。先祖から連綿と受け継がれてきた豊かな歴史、素朴な深い信仰と美しい山、空、海、そしてひととき美しい夕陽と自然豊かな風光明媚な地。この地は神様のみ手の素晴らしい日々実感することのできる場所です。そんな素敵な場所にカリタス診療所はあります。

## ○診療所設立の起源

イエスのカリタス修道会の創立者アントニオ・カヴァリ神父（サレジオ会）が、1940年頃、修道会への召命を求めてこの地を訪れ、多くの子女が応じたことに感謝し、将来この地で何か社会事業を起こすことを当時の出津教会主任司祭に約束しました。

約束から40年後、外海町長（当時）の平野武光氏に相談し、出津・牧野地区で病める人に医療を提供すべく1980年9月8日に開設されました。

## ○地域に根差した医療・介護を提供

長崎市の健康診断、予防医学、初期医療（プライマリーケア）を中心に据え、終末期医療（ターミナルケア）まで適切な外来、入院診療を提供しています。また、通院が困難な方には医師、看護師等がご自宅を訪問し病状の経過観察や健康チェック等に対応しています。住み慣れた我が家で、人生の最後を過ごしたいとご希望される癌末期の方にも、より良い時を過ごしていただくためにご本人、ご家族を中心に在宅ケアを支える方々と連携し、ご自宅での生活をサポートさせていただいています。様々

な相談に応じ、介護や支援を必要とする方が適切なサービスを受けられるよう調整するケアマネージャーも在籍しています。

## ○カトリックの医療施設として

カリタス診療所の“カリタス”は、ラテン語で神の“愛”を意味しています。キリストの私たちに對するいつくしみ深い愛を示す言葉です。この“カリタス”の精神で、一人ひとりのかけがえのないいのちを大切にすることは、私たちに對して最も大切なことです。それは信頼できる医療、心温まる看護、介護を通して利用される方に心身の安らぎを与えるものです。一人ひとりが希望する「私はこうりたい」、10人いれば10人それぞれの「こうりたい」という希望があります。「自宅で過ごしたい」そのために在宅医療を、「自宅近くで入院し治療したい」「最



1. カリタス診療所で働くスタッフの皆さん。
2. 地域に住む方のご自宅を看護師が訪問。
3. リハビリテーションの様子。
4. 併設する介護老人保健施設でのレクリエーション。
5. 癒しの空間をお届けする院内ギャラリー（長崎の教会展：村川幸二様画）。
6. 母の日のお祝いに病棟を訪問。
7. 毎年11月、過去1年に亡くなられた方々を偲び、ご遺族とともに捧げる追悼ミサ。
8. 協働者との祈りの集い。
9. クリスマスはミサ後にアットホームなパーティを開催。

## Visit the Salesian Family

### ● カリタス診療所

イエスのカリタス修道女会  
長崎県長崎市西出津町

## 健康ふれあいフェスタ2019 inカリタス

2019年10月19日（土）10時～13時 カリタス診療所にて

地域の方々との交流を目的に、隔年開催しているイベントです。保育園の子どもたちの和太鼓をオープニングに、鈴木和人さんの大道芸、長与在住の心で撮る写真家池田勉さんの「長崎・潜伏キリシタン祈りの里」写真展、長生き味噌汁試食会やアロマ体験、歯のブラッシング指導、肌年齢チェック、ミニバザー等を企画しています。どうぞお立ち寄りください。



健康ふれあいフェスタでの和太鼓演奏



**カリタス診療所**  
長崎県長崎市西出津町67-5  
<http://www.m-caritas.jp/clinic>  
標榜科目：内科、消化器内科、循環器内科、眼科、歯科、リハビリテーション科  
入院：一般病床19床  
通所リハビリテーション：定員34名  
併設施設：介護老人保健施設19床、短期入所生活介護施設12床、居宅介護支援事業所

（文・写真／カリタス診療所提供）

青少年

**カトリック碑文谷教会  
日曜学校・中高生会  
野尻湖キャンプを開催**



カトリック野尻湖教会でのキャンプに参加したカトリック碑文谷教会の日曜学校と中高生会の参加者

カトリック碑文谷教会（東京都目黒区）の日曜学校（小学生）と中高生会による毎年恒例の夏のキャンプが、2019年8月1～5日にかけて、カトリック野尻湖教会（長野県上水内郡信濃町）で開催された。日曜学校は「心をつないで」、中高生会は「Hand in Hand」をテーマに行われた。5日間とも好天に恵まれ、野尻湖の大自然の中で神の存在を豊かに感じながら、参加した子どもたちは楽しく充実したキャンプの日々を満喫した。

**サレジオ会青少年司牧  
野尻湖少年聖書学校を開催**



野尻湖少年聖書学校の様子

今年で47回目となる「野尻湖少年聖書学校」は、2019年8月8～12日に小学生の部が、13～17日に中高生の部が開催された。聖書学校は山々に囲まれた野尻湖のほとりの美しい大自然の中にある野

尻湖サレジオ山荘（長野県上水内郡信濃町）で毎年行われている。

今年は10歳から18歳まで、68人の少年たちを日本各地の教区から迎えた。司祭、修道士、修練期後の会員、志願生など多くのサレジオ会員と、サレジオ・コオペラトリー会員も、リーダーやスタッフとして参加し、サレジオらしい家庭的雰囲気の中で行われた。皆がその場を自分の家のように感じ、愛情を味わい、尊重され、共通の使命を共に担い、互いへの信頼が息づいていた。

今年の聖書学校のテーマ「聖なる者になろう」は、サレジオ会総長によるサレジオ家族年間目標（ストレンナ2019）から取られた。日本各地（九州、四国、関西、関東）から来た参加者は、「聖なる者になろう」というテーマのもと、聖性について考える時をもち、サレジオ会の創立者聖ヨハネ・ボスコ、ドメニコ・サヴィオ、チャムティ神父らの生涯について学びながら、神が聖なる方であるように聖なる者となる自分の召命について振り返るよう招かれた。聖なる者になることは、人間らしくなくなることはない、子どもたちは学んだ。

召命を考える聖書学校は、神と出会う数多くの機会を少年たちに提供している。ミサ聖祭、共に祈るロザリオ、さまざまなグループ活動、ふり返りの発表、レクリエーション、登山、朝の黙想、よく準備されたゆるしの秘跡など。

この聖書学校が行われてきた過去46年をふり返ると、多くのサレジオ会司祭、修道士の召命が、この聖書学校の実りで



野尻湖少年聖書学校の様子

あることがわかる。今年もまた、若いサレジオ会志願生、修練後の会員、修道士、司祭たちに共に歩んでもらった多くの参加者の中から、神の呼びかけに目覚める若者がいることを祈っている。

じつにさまざまな形で、聖書学校を通して、若者と呼んでくださる神に感謝。47年前に野尻湖で聖書学校を開くというすばらしいインスピレーションを受けた本田善一郎神父（最初の日本人管区長）に感謝したい。

教育・福祉

**サレジオ家族協働者の手引き  
「ドン・ボスコの心で教えよう」刊行**



サレジオ家族協働者の手引き「ドン・ボスコの心で教えよう」（試用版）

サレジオ家族の学校や教育機関、小教区、社会福祉施設で、サレジオ家族のメンバーと一緒に若者・子どもたちのために働く協働者（ミッション・パートナー）のための手引き『ドン・ボスコの心で教えよう』（試用版）が2019年6月、サレジオ会日本管区より出版された。この手引きは、過去3年間のサレジオ家族教職員養成講座の内容を踏まえて、モデルとしてのドン・ボスコ（人生のエピソード）に焦点を当て、ドン・ボスコの教育法を

要約して作成され、ドン・ボスコの心で教育したいと願うすべての人のためのもの。

この協働者の手引きを制作するアイデアは、サレジオ会日本管区の再構築に関する会議の過程で生まれた。まず、サレジオ会員が事業所で協働者の教職員とより良く共に働くために、ドン・ボスコの教育法に関する用語の統一を望んでいた。また、2016年度から2018年度まで行われてきたサレジオ家族教職員養成講座（浦田慎二郎神父とサレジオ・シスターズ、イエスのカリタス会のシスター、協働者のコーディネーターが企画を担当）において、ドン・ボスコの教育の主要な点を網羅することができ、この手引きは過去3年間の講座の成果をまとめたもの（2019年度から講座は2巡目に入っている）。

この手引きの制作には、サレジオ会日本管区プロジェクトチーム、サレジオ家族教職員養成講座のコーディネーターや講座の参加者、日本のサレジオ家族のメンバー、そして若者たちなど、多数の関係者が関与した。

この手引の目的は、今日の日本の子どもたちや若者たちが、サレジオ家族の教育機関、社会福祉施設、そして小教区でより良い教育と養育を受け、毎日幸せに暮らせることをねらいとしている。それを実現するためには、サレジオ的な教育環境における若者へのアシステンテ（共にいる者）として、ドン・ボスコの教育法を通して教育の理念と価値観をよりよく共有する必要がある。この手引きが、サレジオ家族の各事業所における個人的な考察のため、また養成の集いのための両方で役立つよう願っている。

この手引きは試用版であり、現場の教職員の声を聴きながら最終版としてまとめられる予定。また、本書は主にドン・ボスコの教育理念を扱っており、後に、学校・幼稚園・保育園・児童養護施設・小教区の各分野における実践事例集を制作する予定。

**サレジオ学院中学校高等学校  
教職員特別研修を開催**



サレジオ学院中学校・高等学校での教職員特別研修の様子

サレジオ学院中学校・高等学校（神奈川県横浜市）では2019年8月31日、2学期が始まるにあたり教職員特別研修を実施。2019年6月に出版された協働者（ミッション・パートナー）の手引き『ドン・ボスコの心で教えよう』（試用版）をもとに、ドン・ボスコの研究者であるサレジオ会の浦田慎二郎神父を講師に招き、サレジオ教育の原点を確認した。

予防教育の3本柱であるラジョーネ（ragione 道理）、レリジョーネ（religione カトリックの価値観）、アモレヴォレッツァ（amorevolezza 愛情）が教育現場でどう活かされ、またどの点が課題なのか、グループディスカッションを通じて理解を深めた。

研修会後は、サビオ館2階のチャペルでミサが行われ、生徒たちが元気に2学期を始めることができるように、またより良い教育が実践できるように教職員皆で祈りをささげた。

**聖ヨゼフ寮  
大分県内の児童養護施設等の  
新任職員が訪問し見学**

2019年7月2～3日、大分県児童養護施設協議会主催の新任職員研修が2日間の日程で、児童養護施設の清浄園（大分県中津市）で行われ、大分県内の各施設に新たに着任した職員の33人が子どもの権利擁護等を学ぶべく研修に参加した。



大分県児童養護施設協議会主催の新任職員研修の後、聖ヨゼフ寮に見学に来た参加者

研修終了後、希望者を対象に聖ヨゼフ寮（中津市）の見学会を行い、豪雨警戒注意報が出ているにもかかわらず、参加者全員が見学を希望し、新任職員は聖ヨゼフ寮の生活環境や養育のあり方について、施設長の話に真剣に聞き入っていた。

同窓生

**サレジオ同窓会日本連合  
会長レベル会合を調布で開催**



調布サレジオ神学院での会合に参加したサレジオ同窓会日本連合のメンバー

サレジオ同窓会日本連合（会長：吉田博史 大阪星光学院同窓会名誉顧問）は、2019年7月20日、調布サレジオ神学院（東京都調布市）で2019年度の会長レベルおよびワーキングチーム（WT）リーダーの会合を開催した。日本の5つのサレジオ会学校の同窓会会長と若手WTメンバー、連合顧問の鈴木正夫神父（サレジオ会）の14人が参加した。

会合では、各同窓会の近況報告や、連合の各種プロジェクトについてWTリーダーから進捗報告があり、意見を交わした。また、2020年12月に同地で開催が予定されているアジア・オセアニア地域大会



に向けて、調布サレジオ神学院と周辺施設を院長の田村宣行神父の案内により見学。チマッティ資料館長であるガエタノ・コンプリ神父（サレジオ学院元校長）との懐かしい再会もあり、コンプリ神父は「日本のサレジオは君たち同窓生の力がますます必要になります。期待しています」とメンバーを激励した。また、神学院の地下聖堂にあるチマッティ神父の墓前にて、サレジオ同窓生とサレジオ会学校のために祈りをささげた。

修道会・信徒の会

サレジオ6教会の集い  
カトリック三河島教会で開催



カトリック三河島教会で行われた「サレジオ6教会の集い」の参加者

第49回サレジオ6教会の集いが、2019年6月30日、カトリック三河島教会（東京都荒川区）で開催され、首都圏のサレジオ会が担当する教会（足立・鷺沼・下井草・調布・碑文谷・三河島）から約150人が参加した。

まず、開催教会を代表して三河島教会主任司祭の並木豊勝神父が「皆様を熱烈に歓迎します。キリストのもとでの兄弟姉妹としてここに集っているということ意識しながら、知っている人とだけでなく、知らない方同士でもぜひ親睦を深めてください」と歓迎の挨拶を行った。

また、来賓としてサレジオ会日本管区長の濱口秀昭神父が挨拶。青少年司牧を旨とする修道会の長上としての立場から、「今日、『若者の教会離れ』と言われますが、『教会が若者から離れてしまった』という

ことかもしれません。教会は生きています。教会と共に私たちもより生き生きとしていくために、教会や幼稚園・保育園や地域の若者たちに何が出来るかをぜひ考えてください」と参加者を招いた。

この招きの言葉を受けて、小グループに分かれてのディスカッションが行われ、教会の若者離れに関する方策や、信者同志の交流のあり方などについて各教会の事例をもとに、活発な意見交換がなされた。その後の懇親会では、三河島教会の信徒による手作りの料理に参加者は舌鼓を打ち、出し物を鑑賞しながら楽しい時を過ごした。

来年2020年（第50回記念）は、カトリック足立教会（東京都足立区）での開催が予定されている。

サレジアン・シスターズ  
ミッション・パートナーらと  
管区会議を開催



サレジアン・シスターズ管区会議に参加したミッション・パートナー、若者とシスターたち

2019年8月20～23日、サレジアン・シスターズは山中湖サレジアン・シスターズ霊性センター（山梨県南都留郡）で、管区会議を開催した。2020年に開催される第24回総会に向けての準備が主なテーマで、サレジオ会日本管区長の濱口秀昭神父が全日程に同伴した。また、会議の前半では、サレジアン・シスターズの事業所で働くミッションパートナー（協働者）や、関わりのある若者たちの代表者も共に会議に参加して、貴重な意見や分かち合いを行った。

会議前半の締めくくりのミサでは、濱口神父がボナノッテ（就寝前の短い講話）を担当。「教会に若者が来ないけれど、

SNSでつながり、集まって教会のありかたについて話し、ミサに参加しているという現状を知らせてくださいました。私たちは、彼らのことをもっと知る必要があります。日本には苦しんでいる若者が大勢いるので、声をかけていくこと、新しい教会のあり方を見つけること」を参加者に勧めた。

ミッション・パートナーや若者からの意見をふまえて、引き続きシスターたちは後半の会議を行った。

サレジアニ・コオペラトリー  
四日市支部・大阪支部合同黙想会を開催



サレジアニ・コオペラトリーの合同黙想会の参加者

2019年8月31日、サレジアニ・コオペラトリー四日市支部・大阪支部の合同黙想会が、城星学園（大阪府大阪市）で行われた。関西に在住している会員が年に1度集まって開催されるもので、今回は入会に向けて準備をしている7人の方も合わせて、17人が参加した。

指導司祭としてサレジオ会の吉田利満神父が講話、分かち合い、ゆるしの秘跡、ミサなど、1日のプログラムに同伴した。コオペラトリーとしての召命を生きる方々が、関西でさらに育っていくことを願っている。

2019年10月15日発行(年2回4月・10月発行)

編集人 関谷 義樹  
発行人 濱口 秀昭  
発行所 カトリック・サレジオ修道会  
「ドン・ボスコの風」編集事務局  
〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12  
電話:03-3353-8355 Fax:03-3353-7190  
Eメール: dbw@salesians.jp  
編集・デザイン制作 ドン・ボスコ社  
印刷所 日之出印刷株式会社

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。  
© カトリック・サレジオ修道会 2019

「ドン・ボスコの風」について

「ドン・ボスコの風」はサレジオ会創立者ドン・ボスコが1877年に創刊した「Bollettino Salesiano」の日本版。サレジオに関わる人びとの生き方や活動を紹介し、サレジオ家族の絆を深めるサレジオ会広報誌です。

本誌をご希望の方へ ご寄付のお願い

本誌をご希望の方は、上記奥付の「ドン・ボスコの風」編集事務局までお申込みください。本誌は無料配布ですが、趣旨にご賛同くださる皆様のご支援をお願いします。下記の振込口座まで（または本誌綴じ込みの払込用紙にて）ご寄付いただいた方には次号より1部贈呈いたします。

郵便振替口座番号 00100-7-412947  
加入者名 「ドン・ボスコの風」編集事務局



次号No.24は  
2020年4月発行予定です。

「ドン・ボスコの風」バックナンバーは、サレジオ会ホームページ <http://salesians.jp> (トップページの「ライブラリー」→「ドン・ボスコの風」) でご覧いただけます。

編集後記

編集作業の今、ラグビーワールドカップ日本大会が盛り上がりつつある。キャッチコピーの「一生に一度だ」は、今回の教皇来日にも言えるかも。また38年(?)は自信がないしなあ(笑)。チャンスがあれば東京での教皇ミサには参加したい。この訪日が、日本の社会、教会、サレジオ家族にとって大きな実りをもたらすものとなりますように。(S)

サレジオ情報の投稿を  
お待ちしております!



本誌へのご意見や感想、またサレジオ家族の学校・施設・活動グループ・教会・修道院での出来事の写真とコメントを、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・ご希望のプレゼント(下記A～E)を明記し、お送りください。

ご記入いただいた個人情報は賞品発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

応募締切 2020年1月31日

[Eメール] [dbw@salesians.jp](mailto:dbw@salesians.jp)

[F A X] 03-3353-7190 (「ドン・ボスコの風」編集事務局宛)

[ハガキ] 〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22-12  
サレジオ会日本管区本部 「ドン・ボスコの風」編集事務局



A 『フランシスコ教皇さまへ』

世界中の子どもたちが教皇へ宛てた絵手紙。かわいらしいイラストに添えられた純粋で難しい質問に、教皇フランシスコが愛情と魂を込めて、やさしくキチンと答えている。子どもだけでなく、ぜひ大人こそ読みたい本。(本誌p.8～9で紹介。小学校中学年～、総リビ付)  
質問と絵 世界の子どもたち 答え フランシスコ教皇  
訳 片柳弘史  
H18.5×W18.5cm上製 72頁 ドン・ボスコ社



B 『日めくり 教皇フランシスコ  
人生を導く喜びといつくしみのことば31』

教皇フランシスコの心に響く言葉に、喜びといつくしみにあふれる写真を厳選、片柳弘史神父による解説も。毎日ページをめくって味わえば、教皇フランシスコの言葉と写真に勇気づけられて、喜びのうちに生きる人生へと導かれるはず!? (本誌p.7で紹介)  
著者 教皇フランシスコ 写真 L'Osservatore Romano  
訳・解説 片柳弘史  
H17×W14.8cmリング製本 18枚綴・31日分 ドン・ボスコ社

つくっちゃいました♡

LINEスタンプ「ドン・ボスコくん!」

ユーザー続々増加中!

ダンディなお茶目でお茶目なドン・ボスコくん。たまに登場する愛犬グリージョ。日常会話にほっこり笑顔を咲かせちゃオ!

スタンプショップへGO! 「ボスコ」で検索! <https://line.me/S/sticker/4593837>

ドン・ボスコ社  
オンラインショップ [www.donboscosha.com](http://www.donboscosha.com)

フェイスブック



インスタグラム



イエスの香りをお届けします。  
#ドンボスコ社

今、私「〇〇」しています！

サレジオ会司祭

榎本 飛里 神父

*Fr. Hisato Enomoto*

サレジオ学院で  
「カテキスタ」を  
しています！



カトリック研究会練成会にて、これから登る「山田富士」を望む

### 「カテキスタ」という仕事

今、わたしはサレジオ学院で「カテキスタ」をしています。カテキスタというのは本来、「洗礼を望む人びとにキリストの教えを伝え、信仰生活に向けた準備を整える導き手」を指すことばです。ところが、現在のサレジオ学院ではカテキスタという呼称を「サレジオ精神を啓蒙する役割・部署・人」という意味合いで使っています。具体的には宗教行事やボランティア活動のコーディネーター、悩み事の相談などをしながら、サレジオの心を広めています。

### 自分は何に向けて存在するのか

ところで、なぜ今の自分があるのか……について、軽く触れさせてください。それは「他に思いつかなくなっちゃった」からです。いや「マジで」。自分の召命について考え始めた時、つまり、自分は何に向けて存在するのかをハッキリさせたいと思い始めた時、とても「ヤバいこと」に気づいてしまいました。それは「聖人にならなければいけない」ということです。神様、何と無茶なロードマップでしょう！ 気づくんじゃなかった!!

ところが、眼を逸らしても逸らしても逃れられない。自分の中に強烈な憧れがあり、そいつが「自分には価値がある」ということを、泣きたいぐらいに訴えかけてくる。「俺だってあそこ（山田富士）に辿りつけるんだぜ!!」「そんなはずは無い。幻想だ!!」と振り解こうとしても、繰り返し繰り返りついてくる、心を惹きつけて止まない憧れ。「無価値な自分」と「聖人」との両者に可能性を掛け合わせ、天秤にかけたところ「やってみるしかなかった」ということ。…しかし、どうやって?

### 見つけてしまった、聖人への近道

ズルはお好きですか？ もちろん、根が真面目な（本人が言うのだから、確かです!）わたしはズルをしたくありません。

と同時に、ルールに抵触せず、誰も傷つけたりしないズルはチョッとだけ痛快ですよ。……見つけてしまったのです、聖人への近道。神父になることではなく、修道会に入ることです。聖なる人たち（本人たちが言うのですから、確かでしょう!）に囲まれて過ごすこと。え？ 神父にはなぜ……って、紙面が足りないの、またの機会に。

### 自分の判断に委ねられた「人びとのための人生」

現代の若者が見失っているのは召命です。召命とは「自分（第1人称）の望む自分」ではなく、「人びと（第3人称）が期待をかける自分」でもなく「神様（第2人称）が与えた意思・可能性・条件・コンディション……」です。「自分の人生なんだから、自分で決めなさい」と背中を押され、それで納得しては召命は見いだせません。自分の人生は自分だけのものではないからです。自分の判断に委ねられた「人びとのための人生」です。これに気づくために、第2人称的視点（神の視点）が不可欠。

そこで、わたしが最近心掛けているのは「善意の人びとから若者を守る」こと。もちろん「サレジオの心」を広めながら、同時に、若者たちが、善意の人びとから「人生の主権」を奪われることの無いように「気づき」を与えたい。正しい自由の使い方を憶えてもらうために。



榎本 飛里 飛里 神父  
Hisato Enomoto

1963年東京都生まれ。建築・土木・タクシー運転手など様々な職業を経て、32歳の時にサレジオ会シニア志願院へ入る。2005年司祭叙階。現在、サレジオ学院中学校・高等学校カテキスタ。趣味は（人前で演じない）ギターと手品。寂しがりやだが孤独を愛していて引きこもりの傾向あり。

## Salesian Life Story

サレジオ会司祭の人生物語 ドン・ボスコのように生きる



# ありがとう! 恵美漸吉神父 マリアに導かれた 大胆不敵な人生

2019年6月5日、サレジオ修道会司祭 ヨセフ恵美漸吉神父が、老衰のため97歳で帰天した。日本の初期のサレジオ会員で、社会福祉に情熱を注いだ人生であった。

（編／サレジオ会・編集部）



1999年1月24日撮影

## 「喜びの歌と共に朝を迎えた。」

恵美師は1921年（大正10年）11月20日、福岡県瀬高町（現みやま市）に生まれました。幼少の頃、父が友人の保証人となったことで家を失い、家族で熊本市に移りますが、ほどなく父は肋膜炎で他界し、母も同じ病に倒れました。困り果てた恵美家に救いの手を伸べたのは、家の近くにあってショファイユの幼きイエズス修道会のシスターたちでした。シスターたちの計らいによって、恵美師は修道院の賄いさんの家に引き取られました。家族が洗礼を受けたのもこの頃です。

小学5年生の時、シスターに勧められ、サレジオ会の小神学校（当時は大分県中津市、やがて宮崎県宮崎市）に入学。そこ

でチマッティ神父と共に過ごしたことは、彼の人生に大きな影響を与えました。しかしその後の養成期間は、ちょうど日本の戦前、戦中、戦後に重なっています。戦時の思想統制や食糧不足などの厳しさの中での体験が、彼の生き方、信仰をかたちづくったといえるでしょう。何よりマリア信心ついて、彼はこう書いています。「戦争は恐ろしかったが、それによってマリア信心が深まったことは事実である」と。

初誓願は、太平洋戦争の始まる約10か月前（1941年1月31日）にサレジオ会員として初誓願を立て、終戦後、大病を患いながらも1948年12月21日に司祭に叙階されました。

司祭叙階後は、戦災孤児救済のためにタシナリ神父が創設した東京サレジオ学園で働きました。その後、1959年からはカトリック三河島教会の助任司祭を務めると同時に、カトリック中央協議会の社会福祉部（現カラスジャパン）の部長（1959～64年）を前任者のタシナリ神父から引き継いで務めました。任期後も彼は、社会福祉に多大な関心と情熱を傾けていきます。高齢者・障がい者への配慮を欠かさない人であり、1971年には今後の高齢化社会を見越して、社会福祉法人恵美寿苑 養護老人ホーム岡部ビエラを創設しています。

主任司祭としては三河島教会で累計11年、足立教会で5年務めました。そして1995年からは聴罪司祭として働きました。体力と気力の衰えを感じ、2016年からは別府サレジオハウスにて静養。2019年6月5日、老衰のため帰天。享年97歳でした。

明るく誰に対してもおおらかで、若い人にはどんどんチャレンジするように励まし、包容力のある人でした。

アイデアマンであり大胆な策略家でもありました。思いついたことを実現するために、知略、人脈を駆使しました。富士山スバルラインの2合目に扶助者聖マリアの巨像を建立した立役者としても有名です。それまでに培った政界、経済界の人脈で、県や国、宗教界からのさまざまな障害を戦略的に乗り越えて、最終的には国からのゴーサインを勝ち取りました。

半面、単純素朴な人であり、人が良すぎていろいろな人からつけられることも多々ありました。

信心深く、特にマリア信心の人でした。ロザリオを愛し、引退してからは1日50本唱えることを日課にしていました。晩年にこう書いています。「できるだけたくさん唱えて、母なる聖マリアの膝元に帰りつきたい。司祭として多くの人の回心を願い、信仰をもって“アヴェ・マリア、アヴェ・マリア”と聖母の御名を唱えつつ、臨終を迎えて神の裁きの前に出たい。今の私にはこれ以上の幸いはない。このような心境になって死を迎えることができるのも、少年時代、サレジオ修道会よりマリア的教育を受けた賜物と思い、感謝でいっぱいである」。

ヨセフ

恵美 漸吉 神父  
えみ ぜんきち

1921年11月20日福岡県生まれ。1948年12月21日司祭叙階。東京サレジオ学園で奉職後、1959年から64年までカトリック中央協議会社会福祉部部長。その後ドン・ボスコ保育園長、サレジオ会副管区長、三河島教会主任司祭、足立教会主任司祭などを務める。2019年6月5日帰天。修道生活78年。司祭生活71年。享年97歳。



Message from the  
**Rector Major**

サレジオ会総長メッセージ

祈りの力を  
強く信じています

写真：2019年5月 コンゴ民主共和国の子どもたちとフェルナンデス総長

サレジオ会総長  
アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父

私は祈りの力を強く信じています。心の共鳴と交わりを深く信じます。特に私たちが他者のために祈るときに、その力を信じます。他者のために祈ることは、真の愛を表現することです。相手のことを直接知っていようといまいと、私たちがその人たちのことを思い出すその瞬間に、相手は私たちの心に住まうのです。教皇フランシスコが自分のために祈ってほしいと繰り返し私たちに頼むわけを、私はより深く理解するようになりました。

すべての出会いの、はかりがたい価値を記憶に刻みたいと思います。短い出会い、長い出会い。深い出会い、瞬時の出会い。人と人との出会いを特別なものとするなら、私たちはよりよく生きることができるでしょう。

ドン・ボスコは少年たちに言いました。「君たちは泥棒だ」と。そしてこう付け加えたのです。「私の心を奪ってしまったのだから」と。

相手の幸せを祈り求めるとき、人の心が自由に、無償で、ささげもののようにして奪われることがあるのを感じることは、じつにすばらしいことです。